

領域・小問ごとの分析	対策の視点
	<p>していくことも大切であろう。</p>
<p>3 計器の読み方 正答率は62%である。誤答の中では1 kg 2 g、1 kg 20 gのように1目もりを1 gまたは10 gと読み違えた誤りが特に目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を使って最小の目もりは何 gかを考えさせたり、1000 gが何等分されているか、また、200 gずつ、100 gずつ数直線に目もらせるなどの方法が考えられる。測定の経験も多くもたせたい。
<p>4 正味、風袋、全体の重さの関係 正答率は61%である。誤答の中では3 kg 150 gのようにkg、gの関係がわからないためや、4 kg 350 gのように三つの関係が理解されていないための誤りが目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算の場合、単位をそろえることや、全体の重さはいれないものの重さと中味の重さをあわせたものであることを実感として理解させていく必要がある。その上でたし算の逆としての見方をさせていきたい。
<p>5 巻き尺の使い方 正答率は50%である。誤答の中では、イ、ウのように0の位置を見つけられないための誤りが特に目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 0の位置の見つけ方を巻き尺を折り重ねたり、OHPを使うなどしてはっきりと指導し、測定の経験を多くもつようにさせたい。
<p>6 時刻を求める 正答率は52%である。誤答の中では10時10分のように、60進数の繰り上がった数の処理ができないための誤りが目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がった数の処理ができない場合は、線分図などを用いて視覚的にとらえさせることも必要であろう。また、計算する場合には、時と分に分けて計算させ、繰り上がった数の処理の仕方が身につくまで添え書きなどさせる方法も考えられる。
<p>領域②（量と測定）について この領域の平均正答率は59%で最も低い。単位の換算や単位の見当をつけることがおちこんでいる。単に記憶させるだけでなく、実測の経験をふやして日常生活の中で量感を養えるような場の設定も工夫していきたい。</p>	
領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>③ 図形 1 角の大小判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさについては、直角二等辺三角形